

# 巻頭言

2009. 5月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 目的を持って始めよう！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

「合格体験記」がやっとできあがった頃、どの先生を見ても、どこか気が抜けています。去年の教え子がいないという無力感なのか？「そろそろ立ち直って次の学年に向かおうよ！」と思わず声をかけたくなくなります。受験最終盤の感動が今も尾を引いています。

受験を経る中でやっとクラスがまとまり、思った以上に勉強に向かってくれた生徒達。その姿はもうどこにもありません。「受験」ということを真剣に考えてはいるようにみえるものの、まだまだ先のことと考えている「余裕」が多少見え隠れする新しい受験学年にちょっと焦りを感じています。でも、こういうのは焦れば焦るほど、本人のやる気をそぐ結果になるものです。まわりから強制されてやる勉強に意欲は伴いません。でも、受験学年なら何故いま、塾通いをしているのかということは、ほとんど全員が知っていると思います。

一年後の自分を想像してみよう。どんな「自分」になっているのでしょうか？中学生？高校生？大学生？...想像してみよう。なりたい自分って何なんだろう？旅に出るとしても、目的地が必要なのはいうまでもありません。目的がなければそこまでの地図が見えてきません。

「合格体験記」を読んでいると、生徒達の悪戦苦闘が見えます。そこでの失敗の多くは、スタートの遅さ、スタートでの目的の曖昧さです。成功している例は、漠然とでも目標がはっきりしているということと、何か1つ「決心してやりきっている」ケースです。

目的を持って始めるとき、そこに「ミッションステートメント」(信条のようなこと)が出てきます。些細なことでも良いのです。

「まず、やって良かったこと。ボクにとってはその日学習が一番だと思う。おそらくそれがなかったら、僕の受験はガラリと変わっていただろう。」「僕が主にやったことは、英数の間違えた問題の解き直しだ。もちろん、1度だけではなく、何度やっても解けるように、何回も繰り返して解き直した。僕はそれを授業後毎回やっていた。」(合格体験記より)ここでのミッションステートメントは「その日学習をやりつづける」というものであったと思います。一年後に成果が出ます。成績が上がり志望校に近づくことになるのです。そして幼い頃からの夢であった慶応に合格します。入りたい学校というものがあったということが、「その日学習」の継続を可能にしたのです。目的を持って始めるということの大切さが、わかる例だと思います。

授業中、生徒に「こんな勉強は将来全く役に立たないよね！」と相槌を求められることが多くあります。現実の生活には、例えば「因数分解の応用」などは役に立たないということ言いたい気持ちはわかります。でもだからといって将来のために、「仕事」や「家事労働」、はたまた「畑仕事」とかを練習しているわけではありません。どうも自分に都合の良いようにだけ考えているのではないかと思います。どうしてそうなるのか？考えてみるとこうなるのは多分「目的」を持っていないせいです。目的がないと、その時その時の感情に流されていくこととなります。それはとても危険なことです。あとで必ず悔いを残すこととなります。

自分の人生を自分でしっかり考え、決めていくためにこそ「学問」は必要という事。多分、「目的を持つ」ということが、人生を生き抜いていく力になるはずなのです。